

■ 教育目的

本講義（一部演習を含む）では、大学及び社会で必要とされる様々な文章形式を習得するとともに、実践を通じ、豊かな表現力を養うことを目的とする。

高度情報化社会といわれる現代、自分の意志を的確に伝達するためには、文章表現のルールを正しく知る必要がある。そこで前半では、日本語の特色や基礎的な表現技法を扱い、後半においては、実作や分析を交えつつ、種々の文章の表現について学習する。

■ 学習到達目標

1. 文章表現に関する基本的な知識を身につけ、自分の考えを伝達する力を育成する。
2. 教材の読解や実作を通じ、論理的な思考能力の向上を目指す。
3. 文章を組み立て、推敲する楽しさを学ぶ。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：教科書の該当箇所に目を通すとともに、扱う小論文のテーマや文学作品の関連事項について、簡単に調べておく。

復習：教科書やプリント等を参照しつつ、自分の書いた文章を幾度も読み直し、推敲を心掛ける。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1～5	表現技法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス、文章を書いてみる ・ 原稿用紙の使い方、各記号の用法 ・ 文章の構成、引用の仕方 ・ 敬語の基礎知識（1） ・ 敬語の基礎知識（2） 	
6～9	表現の形式 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小論文を書く（1） ・ 小論文についての解説（1） ・ 小論文を書く（2） ・ 小論文についての解説（2） 	
10～13	表現の形式 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手紙文を書く（1） ・ 手紙文についての解説（1） ・ 手紙文を書く（2） ・ 手紙文についての解説（2） 	
14～15	表現の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学作品の表現—分析 ・ 文学作品の表現—解説 	

■ 授業分担者

橋本 のぞみ (No.1～15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

【フィードバック】講義等に関する質問を受け付け、解説する。

【成績評価方法】 出席状況（30%）、授業時の提出物（30%）、レポート（40%）で総合評価する。

■ 教科書

庄司達也 他『日本語表現法—21世紀を生きる社会人のたしなみ—』（翰林書房、2007年4月）

必要に応じてプリントを配布する。

■ その他

受講者は50人以内とする。